国際交流活動実施報告書

報告者：　環境デザイン学科　橋本潤

プロジェクト名: アジアのくらしプロジェクト　ラオスプログラム2022

期　間：　2023年2月20日（月）　～　2023年3月1日（水）

場　所：　ラオス（ヴィエンチャン・ルアンパバーン他）

参加者：　学生：環境デザイン学科　3年生
青葉和音　安地耕一郎　奥澤諒　川﨑明子　草野絢香　杉村春佳　テイ・イーリン
トウ・ロンロン　時任結菜　永濱颯太　下里知菜（自費参加）
教員：岸本章教授　橋本潤准教授　力村真由助手　林裕子助手

概要･背景：　近年、開発が進み急激に変化しているラオスの生活に焦点をあて、その伝統や習慣を活かしつつ、今後の暮らしについてデザイン提案を行うプロジェクトである。ラオス国立大学建築学部との協働により、環境デザイン学科3年生を対象にフィールドリサーチとワークショップを行った。

報　告：

■フィールドリサーチ

2月21日（火）～2月24日（金）

ビエンチャンにて住宅・寺院・市場・公共施設など、生活に関わる多様な場所をラオス国立大学建築学部の学生と共にリサーチした。

ヴィエンチャン近郊の農村（ハースワン村）でホームステイを行った。実際の生活の一部を体験するホームステイの実施はプロジェクトの肝であり、多くの知見を得たと考えている。

また、旧市街が世界遺産に登録されている古都ルアンパバーンを初めてリサーチの対象とした。歴史的な建築・街並・工芸品などに直接触れることが出来る貴重な機会だった。

■ワークショップ

2月25日（土）～２月27日（月）　ラオス国立大学建築学部の施設にて

多摩美・ラオス国立大学の学生が4グループの混合チームを作り、フィールドリサーチを基にテーマを定めて、デザインを検討した。日本語・ラオス語・中国語・英語が飛び交う形でコミュニケーションを取りつつ、スマートフォンの翻訳機能を駆使する様子が時代を感じさる。

ワークショップ最終日に両校の教員による講評が行われた。各グループのテーマは「リサイクルと街並み」「新しい都市住宅」「移動式図書館」「雨水を利用した市場の冷却システム」と、バラエティに富んでおり、限られた日数の中、社会的な課題を見据えたシステムまで踏み込んだ提案が多かった。講評後は交流会が開催され、学生同士の名残惜しい様子が印象的であった。

■総括

2020年の入学時からコロナの影響を受けてきた学年であり、初めて海外を経験する学生も多かった。異文化に直接触れて様々な学びを得た様子は、学生の言動や報告書から強く感じている。ラオスの学生にとっても、日本の学生の視点は新鮮で、自国の文化を複眼的に捉える機会になった様子である。

ラオス国立大学からも2023年度以降の継続を強く希望されており、2017年度のスタートから意義あるプロジェクトへ育っていることを実感する。

■ヴィエンチャン：ラオスの首都　ラオス国立大学の学生と共にリサーチ

夜市の広場にて顔合わせ

フランス植民地時代の建築

寺院の内部

■ハースワン村：ヴィエンチャン近郊の農村　ホームステイを実施

竹を用いた建築の作業現場

住宅のリサーチ

住宅の外部空間

■ルアンパバーン：世界遺産の古都　2021年末に開通したラオス国内初の鉄道で移動

巨大な駅（ヴィエンチャン）

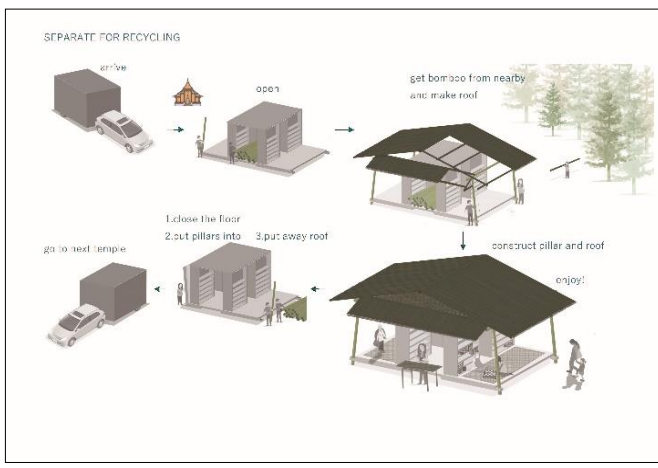
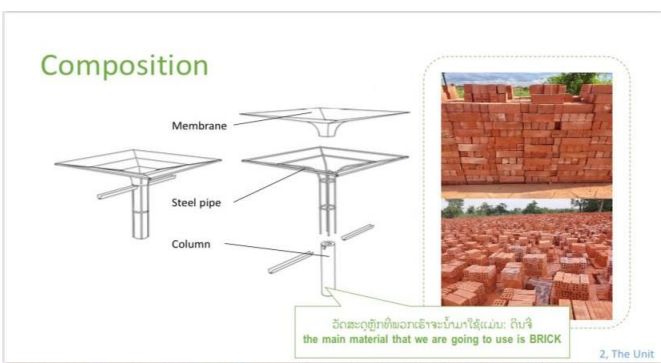
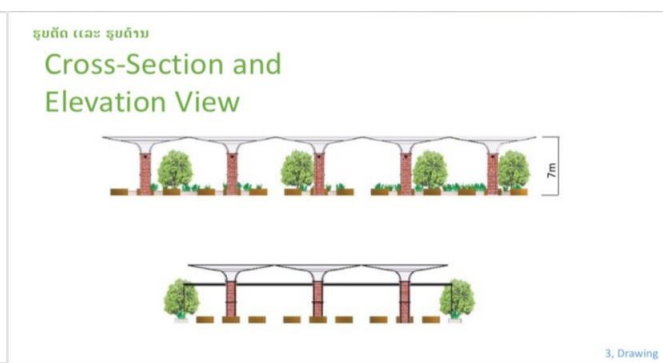
芝浦工大の学生とも合流

保存住宅の内部

■ワークショップ：ラオス国立大学建築学部の施設にて実施

■ワークショップの成果（一部抜粋）

●移動式図書館



●雨水を利用した市場の冷却システム